

# 日々ぼちぼちと



発行：〒714-1202 岡山県小田郡矢掛町小林27番地  
(株)かむら堂 小規模多機能ホームぼちぼち  
TEL：0866-82-2277 FAX：0866-82-2279

2014.1.1発行  
第17号

このニュースレターは、(株)かむら堂 小規模多機能ホームぼちぼち とご縁のある方に贈ります。

わたしのぼちぼち

キタンのぼちぼち

前号では、小規模多機能型居宅介護事業を立ち上げる準備を書いたがその続き。

当時、国が小規模多機能型居宅介護事業を推進していてハード・ソフト交付金合わせて3000万円ほどの補助金があったが、各市町村で、小規模の計画があり、補助金を使用していない地域を探してみると、残りに限られており、その中に矢掛町があった。隣町ではあるし多少の土地勘もある。すぐに役場へ電話して担当者へ確認してみる。「話を聞かせてください。」とのこと、アポを取って話しに行く。「小規模の計画は上げているけど、まだ手を上げる事業者がいらないので計画を出してください。」と、その後何度かやりとりを行うが役場の担当者・課長さんかともフレンドリーで、とんとん拍子に話が進み、その後他の事業者から声がかからないこともあり、実施事業者として指定された。それまでにいろいろあったが、それはまた別の機会に。これで私のつづきやきは、ひとまず終了とさせてもらって、次からは管理者の桐岡のつづきやきになります。(村上康雄)



「何が好きですか」と聞かれたら、あなたはなんと答えますか？私は「チョコレート」と答えています。なぜかといいますが、二十年前はまだ倉敷駅前には三越があった頃、地下の食料品売り場に輸入菓子のコーナーがありました。そこに、カラフルな銀紙に包まれた小さな卵形の物をいっぱいに入れたがチャがチャに似たケースが飾ってあって、それが照明にキラキラ輝き、前を通る度に「何だろう」とって気になっていました。ある日、年配の男性がなんとその卵形の物を袋に入れてもらっているのを目撃して、あのおいちゃんに買えるのなら私も...と敷居が高かったことを忘れ勢いで買って帰ったんです。それは、ミルク・ビター等々、色々な味のグラム売りのベルギー産チョコレートでした。食べたことのない味、鼻に抜けるカカオの香り、「わあ」と感激、あのおいちゃんお洒落だなあ」と感じ、違う世界の物に触れた感動がありました。それから、チョコレートは私の小さな幸せを感じてる元氣玉薬になったのです。もうすぐバレンタイン！楽しみなんです。健康診断もなぜか二回と二回二ヶ月後半になるんですよ。困っちゃいます。(澤 聡美)

## 今月の予定

今月の予定です。どなたでも自由にご参加・見学いただけますので、お気軽にお越し下さい。何もイベントが等がなくともお越し頂いて結構です。おいしいコーヒーをお出しします！

- 1月1日～5日 初詣
- 1月6日～12日 書き初め、福笑い大会
- 1月11日 鏡開き
- 1月15日 とんど焼き
- 1月31日 運営推進会議



## ぼちぼちニュース

事務所を模様替えして、半分を遊技場「ニューパラダイスぼちぼち」にして、パチンコ台2台とパチスロ2台を設置し、無事新装開店となった。最近パチンコ台も、介護施設用に改造してくれる業者があり、玉も循環式になっている。利用者さんも打ち出したら夢中になり、玉がなくなったのも気がつかないくらい。「こんなものするの初めてだけど、すつとするおね」等評判も上々である。



今回は、「認知症」の人のために家族が出来る十カ条です。チェックしてみてください。

一・見逃すな「あれ、何かおかしい？」は、大事なサイン。

認知症の始まりは、ちょっとしたもの忘れであることが多いもの。単なる老化現象とまぎらわしく、周囲の人にはわかりにくいものです。あれっ、もしかして？と気づくことが出来るのは、身近な家族だからこそです。  
二・早めに受診を。治る認知症もある。

認知症が疑われたら、まず専門医に受診すること。認知症に似た病気や、早く治療すれば治る認知症もあるのです。また、適切な治療や介護を受けるには、アルツハイマー型認知症や脳血管性認知症などをきちんと診断してもらうのは不可欠です。  
三・知は力。認知症の正しい知識を身につけよう。

アルツハイマー型認知症と脳血管性認知症では、症状の出方や進行、対応が違います。特徴をよく知って、快適に生活できるように、その後の家族の生活や介護計画づくりに役立てましょう。次号に続く。

出典元：公益社団法人認知症の人と家族の会



前号で棟梁の仕事ぶりを拝見し、どうにか契約までたどり着く。プランとしては、週一日のナイサービスと週六日の訪問。棟梁の生活歴から考慮し、いきなりの集団生活にはなじめないだろうという判断である。

このプランでどうにかスタートした訳だが、意外というか、あっさり溶解け込んでいた。昼に訪問で弁当を持って行くのだが、この頃はまだ自分で飯を炊かれていたので弁当といっても、おかずのみである。

「棟梁、ご飯炊けとるう？」「コメはなあ、こおやってこれて扱くんじゃあ」とまあ、訪問ではこんな会話がほぼ毎日繰り返されていた。そして、ほぼ毎日、夕方には自転車で空の弁当を持ってきてくれるのであるが、やはり、日曜日のナイサービスには来てくれない。どうしようかなあ？と考えながら、一ヶ月が経過。そろそろ例の方法をやってみようと思いを掛けてみる。

「棟梁、棚を作ってくれんじやろお？か？」  
この言葉に目の色が変わったのである。

（次号へ続く。）

食パゲ シーズン2

今回は、役場の北側にある「ルーカリーイシコ」のちょうど、お店の横の路地を北にちょっと入ったところの民家を「何でも屋せなかき」の事務所として借りたばかりで、ご挨拶がてらパンも購入する。たくさんの種類がありどれにしようかと目移りする。結局たくさん買ってしまったのだが、どれもおいしくてはずれなし。お店の名前の由来について聞いてみると、学生時代からのあだ名「イシコ」を店名にしたとのこと。  
「何でも屋せなかき」のちらしをお渡しすると「貼っときましようか」と気さくにに応じてくれた。その後、何度かお店に寄ったが毎回違う種類のパンがあり、全て制覇するのは難しそうである。ちなみに、私の今のおすすめはプレミアムクリームパン。(^^)



編集後記

最近流行の太陽光発電。4月から売電単価が下がったり、消費税が8%になったりで、駆け込み需要がすごいらしい。かきいう「ぼちぼち」も付けることにしたのだが、はたしてシミュレーション通りにいくかどうか。天気も財布もポカポカであってほしいと願うばかりである。(村上)